

## 【 8 】

テーマ「仲間づくり」

タイトル 「悩める子どもにできること～ワールドカフェを通して～」

### 【学習資料】

<読み物資料>

〇〇中◇年◇組では、最近、友達の陰口を言いあうことが目立つようになり、授業中も騒がしく、落ち着かないことが多くなっていました。

このクラスの男子 A、B、C、D は、もともと休憩時間には、よく一緒に遊ぶグループでした。しかし、ある日突然 A は、B、C、D から、からかわれるようになりました。やがて、一方的にたたかれたり、けられたりするようになりました。

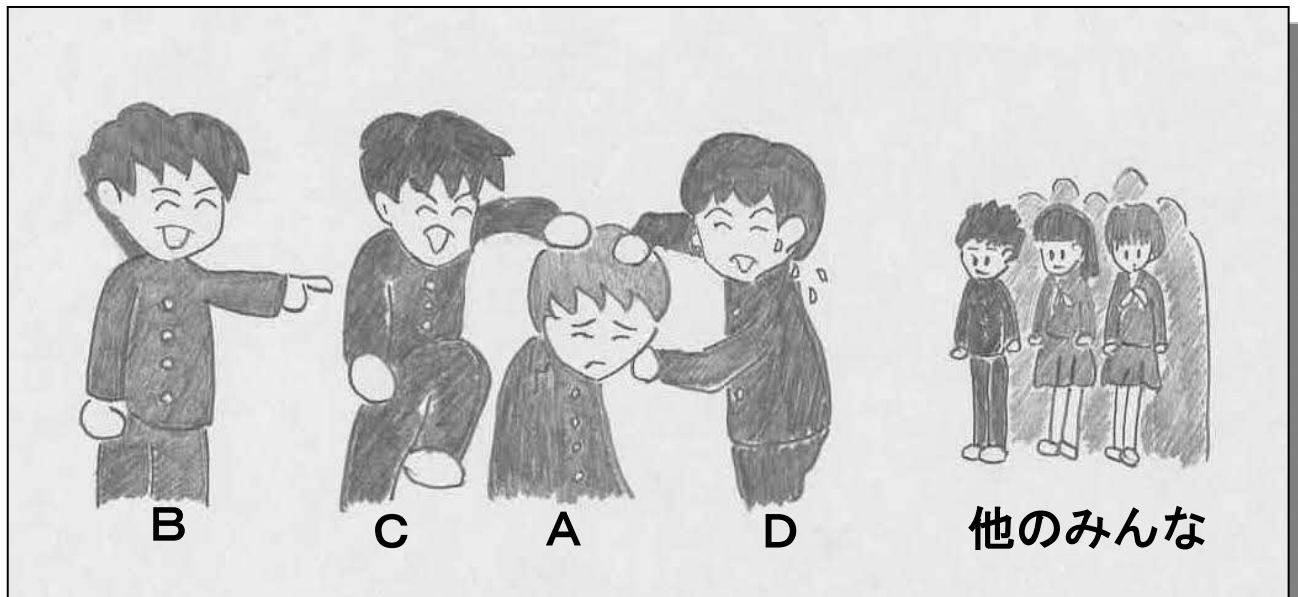
A をいじめる中心は B でしたが、C、D も A をいじめるようになりました。C はただふざけているだけのようですが、D はしかたなくやっているようです。

先生がいないときにいじめが繰り返されるので、まだ先生は、このことに気付いていません。

A は、はじめのころはからかわれても笑顔でごまかしていましたが、今は下を向き、じっと耐えています。

クラスの他のみんなは、A がいじめられている様子を心配そうに見ていたり、「またふざけてる」「いつものこと」となるべく関わらないようにしたりしているようです。

<場面イラスト>



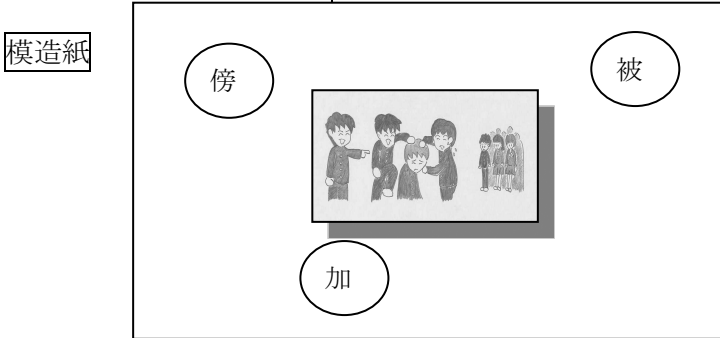
【学習のポイント】

- 「被害者」「加害者」「傍観者」それぞれの立場について、問題解決にむけた保護者や大人としての関わり方を話し合うことを通して、いじめをしない子どもの育て方について理解を深める。
- 保護者が気づきや意見を交流し合い、自分の子育てや子どもとの関わりを見つめ直しながらかつながら合うことが、子どもたちの仲間づくりや人間関係づくりにつながっていくことへの理解を深める。

【キーワード】

いじめのない集団、子どもたちの仲間づくりのための大人の関わり、大人の仲間づくり

【すすめ方（90分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	6	1 本研修会のねらいや進め方の説明を確認する。 ・話し合いのルールについて確認する。 2 アイスブレイクをする。 ・グループごとに自己紹介をする。	■本研修会のねらいや進め方について説明する。 ・真面目な雑談 ・「参加・尊重・守秘」を確認 ■自己紹介をしましょう。 ・名前 ・子どもの学年	◆事前にグループ編成を行っておくと良い。
展開1	5	3 学習のながれを確かめ学習の見通しをもつ。	■【学習資料】の問題点を考えながら、それを解決するため保護者や大人としての関わり方を考えます。	◆<場面イラスト>を貼った模造紙を各グループに配布する。
展開2	20	4 【学習資料】について考える。 ①<読み物資料>を読み、この場面における「被害者」「加害者」「傍観者」を確かめる。 <div style="text-align: center;">  </div>	■<読み物資料>を読みます。 ■この場面での「被害者」「加害者」「傍観者」は誰か考えましょう。	◆ファシリテーターが読む。 ◆問題となる場面での「被害者」「加害者」「傍観者」の立場を確認し、模造紙のイラストに記入する。 ◆模造紙の説明の際には、例示用を黒板に貼る。
		②「被害者」「加害者」「傍観者」それぞれの気持ちを考える。(個人→グループ)	■【学習資料】の「被害者」「加害者」「傍観者」それぞれの立場の気持ちを考えて付箋に書きましょう。 ■付箋に書いた意見を紹介し合いながら模造紙に貼り、話し合いました。	◆3種類の付箋にそれぞれの気持ちを書く。 ◆加害者はB、C、Dそれぞれに分けて考えてもよい。 ◆資料をもとにして考えた意見、体験を想起



展開5	1 2	7 <b>ワールドカフェ（第3ラウンド）</b> をする。 ○第2ラウンドと同様の活動をする。	<p>■第1ラウンドとは別の人がテーブルホストとして残りましょう。</p> <p>■第2ラウンドと同様に話し合い、模造紙に追加案を書き込んでいきましょう。</p>	
展開6	1 5	8 <b>ワールドカフェ（第4ラウンド）</b> をする。 ①テーブルホストが、第3ラウンドまでに出た意見を簡単に紹介する。 ②①をもとに、話し合いをふりかえる。	<p>■テーブルホストは、第3ラウンドまでに出た意見を簡単にまとめましょう。</p> <p>■模造紙に書き込んである内容をもとに、気づいたことや考えたことをふりかえり、意見交換しましょう。</p>	◆グループ内で意見交換を行い、全体での発表は行わない。
まとめ	5	9 ファシリテーターがまとめをする。  10 アンケートを記入する。	<p>■子どもは、「被害者」「加害者」「傍観者」のどの立場にもなる可能性があります。大切なのは、「いじめない子ども」を増やすよう、三者の立場を乗り越えて、いじめのないよりよい仲間づくりをすることです。</p> <p>■資料も参考にしながら、今日のように話し合い、つながりあいながら、保護者や大人としてできることの幅を広げていくことを大切にしたいものです。</p> <p>■学習のポイントをくり返しおさえる。</p>	<p>◆参考資料として資料1、資料2を配布する。</p> <p>◆時間、参加者の反応を見ながら資料の紹介をする。</p> <p>◆テーブルホスト等が、自分の感想を言ってもよい。</p>

[参考資料]

資料1：「友達」（全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会最優秀賞作品）

資料2：「大人のいじめ対応姿勢5カ条」（鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二氏 監修）

資料3：「平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

（鳥取県教育委員会事務局 いじめ・不登校総合対策センター）

## 「友達」

八頭町立八頭中学校 一年

大呂 夏希

私が学校に着くと、きまって友達が話しかけてくることがある。クラスメートの悪口だ。

そのときの私は、友達と一緒にになってクラスメートの悪口・陰口を言うことが、習慣になっていた。友達を非難することで、自分はその子より上なんだ、これで私も仲間はずれにされることはない、と自分の中で安心を得ていた。愛想を言っては相づちを打つ。これがいつも私のすることだった。そうして、いつも悪口を言う側にいると、悪口を言っている側の怖さを知る。だからこそ、いつ仲間をはずされるのか、いつ自分の悪口を言われるのか、びくびくしながらも、その気持ちを表には出さず毎日生活していた。

ある日、クラスの女子が集まって話し合いが行われた。内容は、悪口・陰口について。話し合いなど、よくあることだったので、私は気にも留めず参加した。

「悪口や陰口を言っていないか？」

もちろん、「言っています」など素直に言う人なんていない。かといって、「あの人が言っていました」なんて告げれば後で何をされるかわからない。だから、みんな黙る。そうしているうちに刻々と時間は過ぎていった。

帰宅し家族と夕食をとる際、私はちょっとした話題提供にと軽い気持ちで、話し合いがあったことを伝えてみた。私も陰で言っていること、女子の中で上下関係があること、ありのままを話した。すると突然、父がはしを置き、真っすぐ私を向いて言った。

「本当にこのままで良いのか？」

今考えると、この言葉がなければ今の自分はいなかったかもしれない。私は、父のこの言葉で、初めて自分をみつめなおすことが出来た。本当にこれで良いのかな、このままでも自分は胸を張って生きていけるのかな。悩みに悩んだあげく一つの答えをしばり出した。

自分を変えよう。

その日から、私は悪口や陰口を言う自分を変えるように努めた。そのため、一緒にになって悪口を言っていた友達と少しの間、距離を置くことにした。すると、何でもないように隣にいてくれる友達がいる。私は今まで、陰で、その子の悪口を散々言っていたというのに…。そのうえ、「何かあったの？」とか「大丈夫？」とか心配までしてくれる。友達への感謝がどつとあふれ出てくるとともに、自分が恥ずかしく情けなく思えてくる。こんな私と一緒にいてくれてありがとう。今まで本当にごめんなさい。ただ、ただ、それだけだった。

『一緒に陰で悪口を言う仲間』ではなく、『自分が悲しみ苦しんでいるときでも隣にいてくれる人』だと、私はこの経験から「友達」に対しての思いが変わった。また、私が友達に助けられたように、私も友達に何か起こったときすぐさま自分の手を差し伸べられるような存在になりたい、そう思えるようになった。中学校が統合し、大人数での生活となった今、次は私がみんなの「友達」になる。

(平成27年度「全国中学生人権作文コンテスト」鳥取県大会 最優秀賞 受賞)



# 大人のいじめ対応姿勢5カ条

## (1) いじめられっ子に非なし

<どんな場合でもいじめられっ子に寄り添う>

## (2) 周辺こそがいじめの元凶

<いじめる子よりも周りの子への働きかけが大切>

## (3) 昨日と違うちょっとした様子こそ発見の決め手

<深刻な時ほど子どもは訴えないので、それに気づく感受性が必要>

## (4) いじめの輪から新たな輪へ

<既存の集団と異なる新しい集団や世界を提供する>

## (5) いじめっ子だって泣いている

<いじめる子の抱えるストレスにも目を向けて>

(鳴門教育大学大学院 教授 阪根健二氏 監修)

## 平成29年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の公表について

平成30年10月31日

いじめ・不登校総合対策センター

平成29年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が公表されました。

いじめに関しては、小・中学校で昨年度より認知件数が増加していますが、千人あたりの認知件数は全国平均を下回っています。

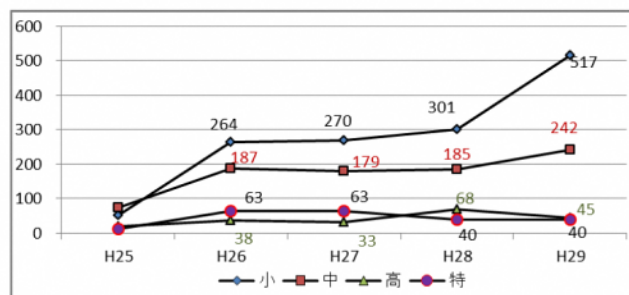
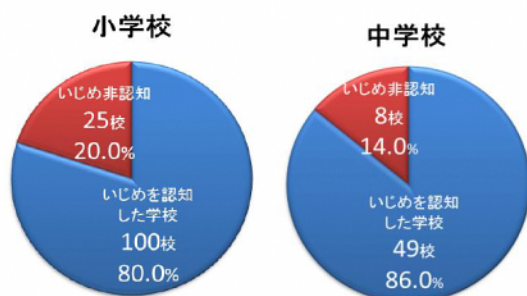
不登校に関しては、鳥取県は平成28年度と比べ、小学校は14人増加（出現率は0.05%上昇）、中学校は3人増加（出現率は0.08%上昇）、高校は23人増加（出現率は0.17%上昇）しています。

暴力行為に関しては、小・中学校とも前年度を上回り、平成25年度以降で過去最高の数値となっています。また、小・中学校ともに、生徒間暴力の件数が増えています。

## 1 いじめの状況について

## (1) いじめの認知件数の推移（国公立）（H25-H29）

いじめ		H25	H26	H27	H28	H29
鳥取県	小	52	264	270	301	517
	中	73	187	179	185	242
	高	20	38	33	68	45
	特	12	63	63	40	40
	計	157	552	545	594	844
	認知件数/千人	2.4	8.7	8.7	9.6	13.8
全国	認知件数/千人	13.4	13.7	16.5	23.8	30.9

(2) いじめを認知した学校の割合  
（公立のみの県独自調査より）

## (3) いじめに関する分析と対応

- ・他県と比較すると1,000人あたりのいじめの認知件数は低い状況である。また、いじめ認知の学校間格差もある。引き続き職員研修や学校訪問等での説明により、いじめの積極的な認知を促すとともに、いじめの早期発見につながる記名または無記名アンケートの効果的な活用等を進めていく。
- ・いじめ認知ゼロの学校を抽出訪問する。
- ・いじめ問題対策連絡協議会で、「SNSによるいじめの通報システムについて」と「いじめ対応マニュアルについて」の検討を行い、施策に反映させる。